

# 来日保健衛生教育プログラムを受講したカンボジア国 カンダール州小学校教員の帰国後研修とその評価 ～第5回渡航班による活動報告～

宮 本 賢 作  
野 田 久 尚  
倉 山 佳 子  
山 口 舞  
清 水 裕 子  
徳 田 雅 明

## 内容目次

- I. はじめに
  - II. 研究目的
  - III. 研究方法
  - IV. 結果
  - V. 考察
  - VI. おわりに
- 謝辞  
文献

キーワード カンボジア 学校保健 衛生教育 来日研修

## I. はじめに

我々は2016（平成28）年度よりJICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）の採択「カンボジア王国カンダールスタン郡の衛生教育改善のための学校保健室大勢の構築プロジェクト」を受け、同国同郡の32の小学校において保健室、手洗い場、トイレ等の整備並びに衛生授業等の支援を開始した。第2回渡航班では現地の小学校内の手洗い場の水質検査を実施（依田ら、2017）するとともに二つの小学校の保健授業を参観・分析した（宮本ら、2017）。また、本研究報告23号において、「カンボジア国行政関係者とカンダール州小学校教員への来日保健衛生教育プログラムの評価」と題して、カンボジア小学校教員等を対象に香川大学において実施した来日研修の内容と分析に関する報告を行った（清水ら、2018）。来日研修では、本学教育学部附属中学校において性教育に関する保健授業、及び附属小学校において手洗いの授業（特別活動における保健指導）を参観した現地教員に対する質問紙調査を行い、カンボジアでの授業実施のために多くのサポートが必要であることが窺えた（宮本ら、2019）。そこで本稿は、その来日研修に参

加したカンボジア小学校教員の帰国後に行う研修として実施した第5回渡航班による帰国後研修に関する内容と結果を報告する。

## II. 研究目的

来日研修を受講したカンボジア小学校教員に対する事後指導としての帰国後研修（第3回来日研修後セミナー）の評価を分析するとともに、第5回渡航での活動内容について報告を行うことを目的とする。

## III. 研究方法

### 1. 研究対象

帰国後研修に参加した25名を調査対象とし、うち研修のプレテスト、ポストテスト時に欠席していた2名を除く、23名を分析対象とした。

### 2. 帰国後研修プログラム（第5回渡航班行程）

#### 2-1. JHP学校をつくる会とのトイレ建設に関する打ち合わせ

2-1-1. 日時：2018年11月14日（水）9：00～10：00

2-1-2. 場所：JHP学校をつくる会

2-1-3. 参加者 JHP学校をつくる会：辰川氏（学校建設担当者）、Mr. Sakhorn・SHKプロジェクト  
出席者：野田客員教授（以下、野田）、山口現地業務調整員（以下、山口）、楠川現地ディレクター（以下、楠川）、ブン現地業務補助員（以下、ブン）

#### 2-2. SHKによるトイレ建設に関する打ち合わせ

2-2-1. 日時：2018年11月14日（水）10：15～11：45

2-2-2. 場所：ウドンハウスオフィス

2-2-3. 参加者：野田、山口、楠川、ブン

#### 2-3. トイレ建設に関する業者打ち合わせ

2-3-1. 日時：2018年11月14日（水）13：30～15：30

2-3-2. 場所：Park Cafe

2-3-3. 参加者 業者側：仲介業者 CJAI社サボン氏、建設業者A社、B社CRYVA CONSTRUCTION・SHKプロジェクト出席者：野田、山口

#### 2-4. SHKによるトイレ建設に関する打ち合わせ2

2-4-1. 日時：2018年11月14日（水）16：30～17：40？

2-4-2. 場所：Brown Coffee 51

2-4-3. 参加者 建設助言者：神崎氏・SHKプロジェクト出席者：野田、山口、楠川

#### 2-5. トイレ建設に関する業者打ち合わせ2

2-5-1. 日時：2018年11月14日（水）18：30～

2-5-2. 場所：Azumaya hotel Phnom Penh

2-5-3. 参加者 業者側：C社・SHKプロジェクト出席者：野田

#### 2-6. 公開授業1

2-6-1. 日時：2018年11月15日（木）8：30～10：30

2-6-2. 場所：Krompreh (No.4) 小学校 (Siemreap)

- 2-6-3. 講師：Krompreh (No.4) 校長、Siemreap (No.23) 副校長
- 2-6-4. 授業内容：日本研修で学んだこと、帰国後の取り組み、正しい手洗いについて、校内見学、評価
- 2-6-5. SHKプロジェクトからの公開授業出席者：宮本准教授（以下、宮本）、倉山教諭（以下、倉山）、山口、ウドンハウス
- 2-7. 公開授業2
  - 2-7-1. 日時：2018年11月15日（木）14：00～16：00
  - 2-7-2. 場所：Boeung Khyang (No.7) 小学校
  - 2-7-3. 講師：Boeung Khyang (No.7) 教員、Trea (No.29) 校長、保健担当教員
  - 2-7-4. 授業内容：日本研修で学んだこと、帰国後の取り組み、正しい歯磨き・手洗いについて、校内見学、評価
  - 2-7-5. SHKプロジェクトからの公開授業出席者：宮本、倉山、山口、ウドンハウス
- 2-8. 公開授業3
  - 2-8-1. 日時：2018年11月16日（金）8：45～10：30
  - 2-8-2. 場所：Outumpor (No.11) 小学校
  - 2-8-3. 講師：Outumpor (No.11) 校長、副校長、Krauch Seuch (No.30) 校長
  - 2-8-4. 授業内容：日本研修で学んだこと、帰国後の取り組み、正しい手洗いについて、校内見学、評価
  - 2-8-5. SHKプロジェクトからの公開授業出席者：宮本、倉山、山口、ウドンハウス
- 2-9. 現地NGO関係者（NGO Heart of Gold）との打ち合わせ
  - 2-9-1. 日時：2018年11月16日（金）14：00～15：00
  - 2-9-2. 場所：ウドンハウスオフィス会議室
  - 2-9-3. 参加者：NGO Heart of Gold: カンボジア事務所代表の西山氏・SHK: 宮本、倉山、楠川
- 2-10. 現地教育省学校保健局長との打ち合わせ
  - 2-10-1. 日時：2018年11月16日（金）14：00～15：00
  - 2-10-2. 場所：教育省学校保健局
  - 2-10-3. 参加者：教育省：学校保健局ソテアビー局長とチェンダ副部長、ティーダー副部長・SHK: 野田、山口
- 2-11. JICAカンボジア事務所とのミーティング
  - 2-11-1. 日時：2018年11月16日（金）15：30～16：15
  - 2-11-2. 場所：JICAカンボジア事務所
  - 2-11-3. 参加者：JICAカンボジア事務所：三浦次長、本案件担当 岸田氏・SHK: 野田、山口
- 2-12. 第3回来日研修後セミナー
  - 2-12-1. 日時：2018年11月17日（土）8：00～11：50
  - 2-12-2. 場所：カンダールスタン郡事務所 会議室
  - 2-12-3. 出席者：来日研修に参加した小学校教員および教育省職員（計25名）
  - 2-12-4. プログラム内容：表1に第3回来日研修後セミナーのプログラム内容を示す。保健教材づくりワークショップでは、倉山が、小学校での性教育の重要性と具体的な性教育の実施事例を説明したのち、女性器を紙と簡単な文房具で作成する演習を行った。休憩を挟んだのち、

宮本が日本における学校保健の領域、保健教育と保健管理、保健学習と保健指導、より良い保健授業を行うための授業づくり（指導案、教材、評価の重要性）について講義を行った。

表1. 第3回来日研修後セミナーのプログラム内容

Time	Program	Method	Responsible Person
8:00-8:05	開会の挨拶	Speech	Ms. Slat Chenda
8:05-8:20	渡航教授からの挨拶	Speech	V.Prof. Noda
	集合写真		Thay Sokheng
8:20-8:25	ガイダンス・本日の研修目的	Speech	Mai Yamaguchi
8:25-8:30	プレテスト		Thay Sokheng
8:30-9:45	保健教材づくりワークショップ	Presentation and group work	S.H.Teacher Kurayama
9:45-10:00	休憩		
10:00-11:15	日本における保健教育・保健の授業づくりについて	Presentation	A.Prof. Mniyamoto
11:15-11:25	質疑応答		
11:25-11:30	ポストテスト	Paper-Based	Thay Sokheng
11:30-11:40	表彰状授与		V.Prof. Noda
11:45-11:50	閉会のことば	Speech	Mr. Buntha Sa



写真1. 教育省 チェンダ氏ご挨拶



写真2. 野田客員教授ご挨拶



写真3. カンボジア国歌斉唱



写真4. 集合写真



写真5. ワークショップ（教材作成）



写真6. 講義（保健授業の作り方）

2-14-5. 分析方法：ワークショップ・講義の前後でプレテストとポストテストを実施した。

2-14-6. プレテストの内容：表2にプレテストの質問項目を示す。

表2. プレテスト質問項目

1	学校保健の領域について説明できる。
2	保健教育と保健管理の違いを説明できる。
3	保健学習と保健指導の違いを説明できる。
4	授業を行うための教材の重要性を説明できる。
5	授業における指導案の重要性を説明できる。
6	男女のからだの違いについて説明できる。
7	性器を清潔にすることの意味を説明できる。
8	思春期に現れるからだの変化について説明できる。
9	からだの変化には個人差があることを説明できる。
10	性教育の重要性について説明できる。
11	児童の興味や関心をひきつける教材を一つ以上作ることができる。
12	これまで指導案を作り、それに従って授業をした経験がある。
13	評価は授業後に行うものである。
14	評価は授業中に行うものである。
15	評価は授業前に行うものである。

質問1～15について4件法（1：全くそうではない、2：だいたいそうではない、3：だいたいそうである、4：全くそうである）にて回答を得た。

2-14-7. ポストテストの内容：表3にポストテストの質問項目を示す。

質問16～27について3件法（1：そう思わない、2：どちらでもない、3：そう思う）にて回答を得た。

質問28、29については自由記述とした。

#### 2-15. 公開授業のフィードバック

2-15-1. 日時：2018年11月19日 9：00～11：00

2-15-2. 場所：No.4小学校、No.7小学校

2-15-3. SHKプロジェクトからの出席者：宮本、倉山、山口

2-15-4. 内容：15日に実施した公開授業のフィードバックを行うため、実施したリーダー校2校にて

表3. ポストテストの質問項目：プレテスト15問と同じ質問に加えて

16	低学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジアの小学校でも実施できる可能である。
17	低学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジア人にとって必要な内容である。
18	低学年用の授業指導案の実施について、この授業をするためには家庭の理解が必要である。
19	低学年用の授業指導案について、この授業をするためには金銭のサポートが必要である。
20	低学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジアの小学生には難しすぎる。
21	低学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジアの中学生には難しすぎる。
22	中学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジアの小学校でも実施可能である。
23	中学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジア人にとって必要な内容である。
24	中学年用の授業指導案の実施について、この授業をするためには家庭の理解が必要である。
25	中学年用の授業指導案の実施について、この授業をするためには金銭のサポートが必要である。
26	中学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジアの小学生には難しすぎる。
27	中学年用の授業指導案について、この授業の内容はカンボジアの中学生には難しすぎる。
28	初めて知ったこと再確認できたことがあれば、その内容を書いてください。
29	指導案に示されたような授業をするために、どのような情報やサポートがあればいいと思いますか。

ミーティングを行った。

#### 2-16. 建設会社（モニカ建設会社）とのミーティング

2-16-1. 日時：2018年11月19日（月） 14：00～15：00

2-16-2. 場所：Joma café（ロシアンマーケット付近）

2-16-3. SHKプロジェクトからの参加者：野田、山口

#### 2-17. 全体会議（最後のまとめ）

2-17-1. 日時：2018年11月19日（月） 16：00～16：45

2-17-2. 場所：ウドンハウスオフィス

2-17-3. 参加者：野田、宮本、倉山、山口、楠川

## IV. 結果

### 1. 来日研修後セミナー

表4に来日研修後セミナー前後のプレテストとポストテストの比較を示す。

プレテストとポストテスト共通の質問15項目中、12項目でセミナー受講により値の有意な上昇が見られた。学校保健の領域についての理解（Q1）はプレテストでも最も高い値を示していたが、更に有意な上昇を示した。保健教育と保健管理の違いについての理解（Q2）、保健学習と保健指導の違いについての理解（Q3）はQ1ほど高くは無いが、いずれも有意な上昇を示していた。教材の重要性（Q4）も有意な上昇を示したが、指導案の重要性（Q5）については有意な上昇はみられなかった。性教育に関連した質問（Q6-Q10）については、いずれもプレテストで得点が低かったこともあるが、演習内容と直結した知識に関する内容でもあり大幅な上昇を示した。その一方で、教材作りの実施（Q11）については演習を行ったにもかかわらず十分な自信につながる程度には至らなかったことを反映したものと言える。評価に関しては、授業後の総括的評価のみならず、授業前の診断的評価や授業中の形成的評価に関する講義内容の理解を見るために、評価は授業後に行う（Q13）、評価は授業中に行う（Q14）、評価は授業前に行う（Q15）の構成としたところ、プレテストではQ13は高い値であったが、Q15は低い値であった。Q15に関してはポストテストにおいて有意な上昇がみられたことから、授業前に実施する診断テストについて講義

表4. プレテストとポストテストの比較

	Pre		Post		t	p	
	Mean	SD	Mean	SD			
Q 1	3.48	0.511	3.74	0.449	-2.313	0.0304	*
Q 2	3.00	1.000	3.57	0.507	-3.214	0.0040	**
Q 3	2.96	0.706	3.22	0.736	-2.313	0.0304	*
Q 4	3.26	0.689	3.57	0.590	-1.775	0.0897	*
Q 5	2.96	0.638	3.30	0.822	-1.624	0.1187	ns
Q 6	2.87	0.757	3.70	0.470	-5.527	<.0001	***
Q 7	2.87	0.757	3.70	0.559	-5.527	<.0001	***
Q 8	2.91	0.848	3.61	0.499	-3.810	0.0010	**
Q 9	2.74	0.689	3.26	0.541	-4.219	0.0004	***
Q10	2.91	0.733	3.44	0.590	-3.425	0.0024	**
Q11	3.09	0.668	3.48	0.790	-1.621	0.1192	ns
Q12	2.91	0.733	3.30	0.470	-2.398	0.0254	*
Q13	3.39	0.722	3.74	0.449	-2.336	0.0290	*
Q14	3.26	0.810	3.52	0.730	-1.447	0.1619	ns
Q15	2.30	1.146	3.17	0.984	-3.792	0.0010	**

により理解ができたことが窺えた。一方、授業中の評価（Q14）についてはプレテストでもQ13ほどではないが高い値を示したが、ポストテストでは有意な上昇にはならなかった。このことから、授業中に実施する形成的評価についてはおそらく保健以外の授業ですでに理解や経験が高かったことが窺えた。

表5にポストテストのみの質問項目の回答一覧を示す。

これらの質問はセミナーの際に配付した倉山先生作成の性教育に関する指導案A（小学校低学年用）指導案B（小学校中学年用）について、その授業内容の実施可能性（指導案A：Q16、指導案B：Q22）についてはいずれも高値を示し、特にQ16は全員が可能であると回答した。また、内容がカンボジア人にとって必要か（指導案A：Q17、指導案B：Q23）についてはいずれも全員が必要と回答した。また、授業実施に向けた家庭の理解の必要性（指導案A：Q18、指導案A：Q24）については若干低くなり、性教育の実施に向けた家族の理解を得ることが難しい、あるいはその必要性を感じていない教員がいることが窺えた。授業実施のための金銭的サポートの必要性（指導案A：Q19、指導案B：Q25）については低く、教材等で費用がかからない工夫ができることがワークショップを通じて理解された結果が窺えた。またカンボジアの小中学生への授業の難易度（Q20、Q21、Q26、Q27）については難易度が高いとは感じておらず、児童生徒の既存の知識、学習レディネスや発達の程度に対応出来る内容であることが窺えた。

## 2. 公開授業について

来日研修に参加した3校の教員が、近隣の来日研修に参加しなかった教員に向けて実施した公開授業について、フィードバックした主な内容を以下に示す。

### 2-1. NO.4 小学校

#### ・宮本からのフィードバック：

（良かった点）帰国後の取り組み紹介で、先生が日本で学んだことをカンボジアの現状でできる範囲で

表5. ポストテストのみの質問項目の回答一覧

	Mean	SD
Q16	3.00	0.000
Q17	3.00	0.000
Q18	2.91	0.294
Q19	2.17	0.937
Q20	2.26	0.964
Q21	1.78	0.902
Q22	2.61	0.722
Q23	3.00	0.000
Q24	2.83	0.491
Q25	2.13	0.968
Q26	2.09	0.949
Q27	1.70	0.926

取り組まれた内容を、他校でも取り組み易い方法を具体的に紹介していたこと。

(改善すべき点) プレゼンの写真に写っている日本語をクメール語に訳してあげた方がよりわかりやすい。途中退出する人が目立った。

(次回の公開授業に向けたアドバイス) 手洗いチェッカーは各校に1つずつ配備できると良い。記録簿は個票スタイルのもあれば良い(健康診査の記録に関しても)

・倉山からのフィードバック:

(良かった点) 保健室が清潔に保たれている。保健室の壁に交通安全のポスターが貼ってある。(→安全教育の一助となっている。) ゴミ分別用のゴミ箱がきちんと設置されている。(→生徒に意識付けされて良い。今後リサイクルの考え方もできるようになる。学校が清潔に保たれている。) 手洗いチェッカーが工夫されていて良かった。(→授業でも同じように生徒に教えると興味関心が高まって良いと思う。)

(改善すべき点) ベッドマットレスが大きくて落下の恐れがある。タオルで手を拭くのはOKだが、皆が同じタオルを使うのは衛生的によくないので一人一枚は持ってくるようにした方が良い。

(次回の公開授業に向けたアドバイス) 手洗い指導のポスターを手洗い場に貼ると生徒がポスターを見ながら手洗いができるので低学年にはオススメ。発問や手洗いの実践といった参加者を巻き込んだのプレゼンテーションを見て、先生方のプレゼンテーション能力が高いと感じたため継続してほしい。

2-2. NO.7小学校

・宮本からのフィードバック:

(良かった点) 保健室の設置例や運用など独自の取り組みについて他校でも工夫ができる様々なアドバイスを積極的にできていた。Treaの手洗い場にある鏡(歯磨き用)が良かった。歯磨きの重要性について具体的に説明することで参加した先生方が共感出来るようなものとなっていた。また、自分で調べた内容を紹介していた。手洗いについて、クイズを挟みながら、楽しく興味をひく工夫がされていた。

(改善すべき点) 日本で学んだ内容のスライドが午前中のもとのほぼ同じ内容であった。独自にプレゼンを準備できる環境も考えなければならない。手洗いチェッカーは全校に導入することと、ジェルの使い方(最初たっぷりジェルを塗ること)を指導する。



(次回の公開授業に向けたアドバイス) クイズ形式でのプレゼンから、授業でも同じようにクイズ形式で手洗いの保健授業をしている様子が伺えた。低～高学年にかけて発達段階をふまえた指導内容の違いがしっかり考えられて構成できていた。(→保健授業がしっかりとできている事が期待できる。)

各自が来日研修の際にスマホで撮った写真を上手く活用する事で日本に行かなかった先生も理解が深まると感じた。(ゴミの散乱具合の比較は良かった。) ゴミ焼却・石けん使用・歯磨き粉使用の問題について、どう考えるべきか。カンボジア(地域)に合ったやり方が重要。

・倉山からのフィードバック:

(良かった点) 保健室記録をつけているのが素晴らしい。予防歯科に力を入れていることに驚いた。(→ダメになってから治すというのではなく、ダメにならないように予防するという考え方が生徒に養われると病気やケガでも同じように考えられる生徒が増えると思う。)

(改善すべき点) 学校内でのゴミ焼却は、何か他の方法がないだろうか。壊れているものをそのままにしているとケガの原因になる。

(次回の公開授業に向けたアドバイス) プレゼンテーション能力が高く、身振り手振りで伝えていてすごく良かった。参加者の先生方も疑問に思ったことを発問する等は素晴らしいと思った。保健室記録を月ごとにまとめると、生徒のケガや病気の傾向がわかり、ケガや病気にならないように対策をとることができる。また、手洗いの手作りポスターを水道の所に貼ると効果が高い。

### 2-3. NO.11小学校

・宮本からのフィードバック:

(良かった点) ペットボトルのリサイクルについて単にお金になるだけではなく、資源の再利用の重要性についても触れていた。焼却場がちゃんと炉があった。燃えるゴミ、燃えないゴミを実験で燃やしてみても子どもに燃えるか燃えないかを理解させる実践的な取り組みをされていた。ゴミ箱以外に、ゴミを捨てない行動の重要性を説明できていた。手洗い指導は発問が上手であった。回答する先生方の積極性は日本よりも良い。

(改善すべき点) 保健室のベッドの高さが低くて良いが、マットレスがないのは残念。来日研修を受けた先生のプレゼン(手洗いの説明)は良いが、伝え聞いてプレゼンした先生はジェルの使い方が理解できていなかった。手洗いにおいて、汚染と感染の違いの認識が重要。

(次回の公開授業に向けたアドバイス)「健康第一」とであるという基本的な考え方を常に意識することの重要性。(毎日確認すると良い。)

・倉山からのフィードバック:

(良かった点) 保健室の役割をしっかりと理解できている。(→医者ではないので、できることは応急処置のみという点がgood。)健康が一番(→健康を守るという考え方がgood。)保健室が清潔であった。ゴミをリサイクルする考え方が良い。焼却場をきちんと作っていることが素晴らしい。→生徒に実際に見せているのが良い。(Krauch Seuch)

(改善すべき点) 生徒に一度教えただけでは定着しないので、手洗いのポスターを掲示するなどして定着させることが大事。保健室のベッドは低くて良いがマットレスがあればなお良い。

(次回の公開授業に向けたアドバイス) プレゼンテーションがわかりやすかった。声の大きさも良く、実際に実験をして良かった。今後、心の悩みで保健室に来るようになるので、そんなときに気軽に相談できる先生と場所が必要になる。(校内を見て)子どもたちがいきいき学校生活を送っていることがとても素晴らしい。常に先生方との信頼関係ができているので安心して学校に通っているのだと感じた。

### 3. 各団体とのミーティング等

#### 3-1. JHP学校をつくる会

学校建設事業を長年カンボジアにて行っているJHP学校をつくる会の辰川氏（学校建設担当者）およびMr. Sakhornと面談を実施した。

野田から、弊プロジェクトでは衛生教育の一環としてトイレや手洗い場の建設を予定していることの説明があった後、JHPが建設した学校トイレについて、採用した建設会社やトイレ様式、建設費用および支払い方法、トイレ建設後の維持管理方法等について質問がなされた。また楠川氏より、カンダルスタンにて実施している弊プロジェクトの現状について説明がなされた。

辰川氏からは、学校建設にはコミュニティとの連携も重要であるとの説明も受けた。19日にはJHPが建設した学校を視察予定であり、ブン氏が学校の場所を確認した。面談終了後、辰川氏より実際にJHPが学校建設を委託した業者4社の紹介を受け、そのうちの1社（モニカ建設会社）と19日の午後に面談を行うこととした。

#### 3-2. NGOハートオブゴールド

西山氏に、ハートオブゴールドのカンボジアでの活動内容について話をしていただいた。2006年から2009年にかけて小学校の体育の指導要領と指導書を作成するのに携わり、現在は体育教育を広めるためにリーダー校への指導助言を行っているということであった。また、運動会など体育行事の支援も行っているとのことであった。その資金は、日本でのチャリティーマラソンや支援団体からの寄付でまかなわれているとのこと。ハートオブゴールドは、カンボジアで長年、支援・援助を行って成果を出してきている。また、一過性の支援・援助ではなく、リーダー校を中心に発信していく点などの人材育成などにも力を入れておりプロジェクトの参考になる話であった。また、教育省内の組織構造及び体育と保健に関する教員養成に関する進捗状況（2年制から4年制への移行）等をお聞きし、今後の支援のあり方に関する新たな示唆を得た。

#### 3-3. 現地教育省学校保健局長

始めに、野田から今回の渡航プログラムにおける公開授業の実施と学校訪問について説明がなされた。学校訪問はモデル校選定のために水回りトイレの現状調査を目的として実施したが、井戸水は深さが浅く、安全な水が確保できないことが問題である。プロジェクト期間は残り半分を切ったが、残りの時間で継続的な衛生教育の仕組みを作ることを目的とし、今後も研修等を行って活動の定着を図りたい。

小学校での健康診断については日本から医師・歯科医師が渡航し助言を行う予定であるが、それには保健省の協力も必要である。そこで、どのように協力を要請すべきかについて野田客員教授からの質問に対し、ソテアビー局長からの回答は、カンボジア政府でもJoint programとして一年に一度健康診断を実施する話を進めているが、まだ実施していない。SHKプロジェクトにてカンダルスタンで実施するためには、保健省と教育省それぞれに香川大学からの正式なレターの提出が必要である。その際に、健康診断において何人の医師が必要か等の記載も求められるとのことであった。

また、先日局長が山口に要望した石鹸づくり等のワークショップ開催については、プロジェクトの期間や予算等の問題もあるため、当初のプロジェクト計画に記載されている事項を優先し、新しい取り組みは現段階では控えたいと考えていると野田から説明があった。一方で、トイレや手洗い場の設置に関しては、SHKプロジェクトとしても高い関心があり、モデルトイレの建設も予定しているという野田の発言に対し、ソテアビー局長からは、トイレがない学校は現在でも沢山あり、トイレが十分でないことで女子児童が学校に来られない現状について説明を受け、香川大学に対しても水と衛生環境システムの構築を支

援してほしいとの発言があった。

学校保健局が作成予定である保健教科書についても、いくつかの分野（性教育や栄養）については他ドナーの協力を得ているが、環境やメンタルヘルス、プライマリーヘルスケア等に関しては協力を得られる団体を探しているため、支援してほしいとの要請があった。また、その教科書を使用した教員養成、さらには保健教育をできる教員がいない現状から、教員養成課程での保健教員養成に関する研修の実施、奨学金制度等で養護教諭などの保健教育者を育成すること、保健を専門に学んでいない教員に対する研修の実施（現在SHKプロジェクトで実施している様な研修）などを要望したいという意見が出た。これに対し、野田からは帰国後にプロジェクトマネージャー等と検討する旨が伝えられた。

先日、SHKプロジェクトで作成した保健室のマニュアルをもとに、プノンペン市の小学校1校にて保健室を開設し保健担当教員を配置した旨がソテアビー局長から説明され、今後も少しずつ小学校の保健室を増やしていきたいとの発言が聞かれた。

#### 3-4. JICAカンボジア事務所

始めに、野田より今回の渡航中に実施する公開授業と来日研修後セミナーについて説明がなされ、野田はモデル校選定のための現場調査を実施するために渡航した旨が伝えられた。

その上で、三浦次長から、学校のトイレは既存の校舎内に建てるのかという質問があり、野田より既存の建物内ではなく、別の建物として新設することを検討しており、その際に男女別のトイレを建てることを検討しているとの回答があった。また、続けて三浦次長からの来日研修の前で先生や学校に変化は見られたかという質問に対し、山口より、各学校での保健室の取り組みの現状と校内が美化された（ゴミの減少や分別の実施）ことについて説明がなされた。三浦次長より、JICAではなかなか現場を見に行くことが難しいため、写真等で報告をしてもらえると有難いとの発言があった。本案件担当の岸田氏より、JICAのFacebookページにもSHKプロジェクトの活動について随時載せていきたいとの発言もあった。また、三浦次長より、保健室の業務を継続するためには保健教員の仕事をマニュアル化するなど確立する（組織としての役割を明確化する）ことが重要であるとの助言がなされた。

現在、保健担当教員は職種ではなく保健室の教員として給与が払われているわけではないため、それぞれの学校で、誰が保健業務を担当するかを明確にすることの重要性について協議を行った。また、保健室の運営状況についてモニタリングは行っているかという三浦次長からの質問に対し、山口からSHKプロジェクトで作成した保健室の記録用紙をもとに毎月の報告書によって保健室に来る児童の疾患等の情報を集計および分析していく事が説明された。

最後に、野田から今後のプロジェクトの進め方として、PDMに記載した目標や活動内容に沿ってプロジェクトを実施し、事業終了後も学校での保健室運営が継続していけるようカンボジア政府に対して働きかけていく旨が説明された。

## V. 考察

開発途上国での学校保健に関して友川（2014）は、①開発途上国での学校保健活動の重要性と②国際支援機関による学校保健支援、③開発途上国における学校保健の課題についてまとめている。その中でまず、重要性として認められるようになった理由を「1. 学童期の子供の健康状態の改善及び健全な成長発達が、国家の重要課題として認識されるようになったこと」、「2. 子供の健康状態を改善するために、学校という場所を活用するアプローチが、極めて効率が良いこと」、「3. 世界銀行の調査で、子供の教育と健康の問題は、密接な関係を持っている」、そして「4. 学校において、子供が健康教育を受け、ライフ

スキルを獲得することは、学校内だけでなく社会全体へ裨益することが期待されている」と、4つ挙げている。我々のプロジェクトでもまさにこの4つの重要な要素を意識した上で活動しているが、現地の教員にこれらを整理して理解してもらう必要があることが示唆された。また、近年の国際支援機関による学校保健支援として、フィリピン、ラオス及びカンボジアでは、ドイツの開発支援団体（GIZ）の支援により、学校内で手洗いや歯磨きを日常的に行うことで、子供の衛生習慣の獲得と定着を目指す活動が進められているとされており、東南アジアでの衛生環境の改善において、保健教育の一環として、手洗いや歯磨きの重要性が支援対象となっていることが窺えた。最後に、今後の開発途上国における学校保健の課題について7つ挙げている。「1. 学校保健活動を全国に普及していくための財源の確保」、「2. 省庁内への学校保健活動の調整・統括機関の設置」、「3. 学校保健活動の実施における事前事後評価とフィードバック活動の強化」、「4. 学校保健活動を既存の教育制度に統合させること」、「5. 体験と実践を重視した健康教育により、子供の健康習慣の形成と行動変容を支援すること」、「6. 各国での学校保健活動の成果を、同様の地理的文化的背景を持つ地域で、共有していくこと（ネットワークの形成）」、そして「7. 肥満や生活習慣病、交通事故、メンタルヘルス等の新規課題への対応」以上を挙げている。今回の我々のプロジェクトについてみると、この中で4. と5. に関しては、我々が現在課題と感じながら進めている内容であるが、1. に関しては、首都プノンペンを中心とした首都圏地域と郊外での衛生環境の違い、教育環境の違いはカンボジアには歴然とあることを新たに目の当たりに感じた。それと関連し7. の新たな健康課題として、交通事故の激増、そしてメンタルヘルスが今後急増することが予測されることから、この辺りの課題に関する保健室や新たな保健教員の役割について分析する必要性が窺えた。また、近隣諸国での支援をしている国内外の研究者と連携を取りながら6. のネットワークの形成と情報の共有を進めながら推進していく必要があることが窺えた。

## VI. おわりに

今後、現地での保健教員の養成に本学のプロジェクトも関わりを持っていくことから、今回の渡航での成果を踏まえつつ、さらに現地で必要とされる保健教育の内容の精選と、カンボジア国の環境の変化を予測し、それに対応可能な教育環境と衛生環境の見通しをもちながら進める必要性を認識しながらプロジェクトを発展させていく必要性が感じられた。

## 謝辞

現地NPO UDONHOUSEの楠川富子氏、ブン氏、タイ氏、NGO ハートオブゴールドの西山直樹氏、JICAカンボジア事務所の三浦淳一次長及び岸田菜見所員、教育省：学校保健局長ChhayKimSotheavy氏、SlatChenda氏、EkTitthida氏、JHP 学校をつくる会：辰川はる奈調整員（学校建設事業担当者）、Mr. Sakhorn氏はじめ、多くの皆様にご尽力いただきました。謹んで御礼申し上げます。

## 文献

- 依田健志・宮本賢作・土居謙治・依田春菜・岡部悠吾・神田かなえ・鈴木裕美・野村美加・清水裕子・平尾智広（2017）. カンボジア・カンダール州カンダールスタン郡における小学校内設置手洗い場の水質調査 地域環境保健福祉研究, 20, 47-52.
- 宮本賢作・清水裕子・渡邊久美・稲毛美智子（2017）. カンボジア王国カンダールスタン郡小学校における保健・衛生授業の展開と支援 学校保健研究, 59, 179.
- 清水裕子・峠 哲男・渡辺久美・徳田雅明（2018）. カンボジア国行政関係者とカンダール州小学校教員への来日保健衛生教育プロ

来日保健衛生教育プログラムを受講したカンボジア国カンダール州小学校教員の帰国後研修とその評価

プログラムの評価 香川大学生涯学習教育研究センター研究報告, 23, 23-42.

宮本賢作・清水裕子・渡邊久美・稲毛美智子 (2017). カンボジアからの来日研修参加教員に対する保健学習授業参観における評価項目の作成と分析 学校保健研究, 60, 251.

宮本賢作・倉山佳子・谷本結衣・石川敦子・河村千種・山神眞一・野崎武司・石川雄一・上野耕平・米村耕平・小方朋子・清水裕子 (2019). カンボジア来日研修における附属校での保健学習授業参観における共通評価項目の作成と分析 香川大学教育学部研究報告第1部, 151, 101-111.

友川 幸 (2017). 諸外国の学校保健：学校保健ハンドブック第6次改訂 教員養成系大学保健協議会 ぎょうせい